

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	43	学校施設の計画的整備					
章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち					
大項目	01	生涯学習、スポーツの推進					
施策	01	学習・教育環境の充実					
事業内容							
目的	「学校適正配置等審議会答申(4年7月)」の趣旨を尊重し、「教育基盤整備検討委員会報告(14年2月)」の学校適正配置ビジョンに基づき、統合新校を建設することにより、学校施設の計画的施設整備を行います。						
対象・手段	学校適正配置計画を進める中で、新校舎の位置、設計等について適正配置対象校の関係者からなる統合協議会と協議しながら整備を進めます。						
成果(事業が意図する成果)							
統合することを機に老朽化した施設を建替え、今後の多様な教育方法等に対応できる学校施設を整備していきます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
学校適正配置計画に基づく計画的整備 (統合新校「四谷小学校」の新校舎・落成)		進捗率 基本設計・実施設計をもって50%とする 新校舎落成をもって100%とする			(平成18)年度に (100%)の水準達成		
(統合新校「西早稲田・新宿中学校」の新校舎・落成)		進捗率 基本設計・実施設計をもって50%とする 新校舎落成をもって100%とする			(平成19)年度に (100%)の水準達成		
(統合新校「新宿西戸山中学校」の新校舎・落成)		進捗率 基本設計・実施設計をもって50%とする 新校舎落成をもって100%とする			(平成22)年度に (100%)の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業 成果 指標	目標値1	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	実績1	%	30.00	60.00	100.00	100.00	
	= /	%	30.00	60.00	100.00	100.00	
	目標値2	%	0.00	100.00	100.00	100.00	
	実績2	%	0.00	50.00	75.00	100.00	
	= /	%	0.00	50.00	75.00	100.00	
	目標値3		0.00	0.00	50.00	100.00	
	実績3		0.00	0.00	50.00	50.00	
	= /	%	0.00	0.00	100.00	50.00	
事業の実施内容							
平成18年度	戸塚・大久保地区中学校適正配置は、西早稲田中と新宿中がそれぞれ仮校舎にて開校し、新校舎の建設(第1年度)に着手します。四谷地区小学校適正配置は新校舎が竣工し、落成式や移転作業など19年4月新校開設に向けた具体的な準備作業を行います。西戸山地区中学校適正配置は統合協議会を設置し第七次・学校適正配置計画の策定に向け協議します。						
平成19年度	戸塚・大久保地区中学校適正配置は、西早稲田中と新宿中の新校舎が竣工し、平成20年4月開校に向けての準備を完了しました。四谷地区小の学校適正配置は19年4月に四谷小学校が新校として開校しました。西戸山地区中学校適正配置は統合協議会で協議を継続し、基本設計は終了しました。なお、平成20年6月には実施設計を完了する予定です。						

部名称		教育委員会事務局		課名称		教育施設課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	79,512	474,158	3,128,266	4,075,838	四谷小学校の工事費については、発生主義の考え方を取り入れています。よって19年度から減価償却費に計上しています。 1,781,242,050×90% ÷47年=34,108,890 (償却期間47年)
	人件費	千円	33,352	33,352	33,120	33,040	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	34,109	
	総計 = + + +	千円	112,864	507,510	3,161,386	4,142,987	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	112,864	507,510	3,161,386	4,142,987	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	112,864	507,510	3,161,386	4,142,987	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	4.00	4.00	4.00	4.00	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>学校施設の計画的整備については、平成4年の区立学校適正配置等審議会答申、平成14年の学校適正配置ビジョンに基づき計画的に進めています。なお、施設の緊急整備を必要とする耐震補強工事は平成19年度で完了しました。今後も学習や生活の場にふさわしい魅力ある学校施設を整備していくことが課題です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由	達成度	3	第五次・学校適正配置計画により、「新宿中」、「西早稲田中」が20年4月に開校しました。第六次学校適正配置計画により19年4月に「四谷小学校」が開校しました。第七次学校適正配置計画により西戸山地区統合協議会を設置し詳細を検討しています。				
	実施の成果	3	新校建設により、児童生徒数に見合った適正規模の学校施設整備が可能となり、今後の多様な教育内容・方法等に対応した施設整備を行うことができます。また、既存の校舎を仮校舎として使用するため、教育環境の悪化を最小限に抑えることが可能です。				
	効率性	2	統合対象校に提案し対象校の同意を得た上で「統合協議会」を設置し、統合時期・校名等を決定するため、かなりの時間を要します。必ずしも効率的とは言えない面もありますが、区民と一緒に協議していくため、最終的には受け入れられやすい手法です。				
	行政の関与	3	良好な学習・教育環境の整備は学校設置者である区の責務です。				
	妥当性	2	統合対象校については、学校の規模及び老朽化の度合いから判断すべきであると考えますが、今後は計画段階から地域住民の意向を尊重できる手法を取り入れます。				
	施策寄与度	3	良好な教育環境の提供や、老朽化した学校施設の統合による建替えや跡地の活用等、継続的、計画的に進めることが必要です。統合により、学習や生活の場にふさわしい学校建設が推進され「学習・教育環境の充実」に寄与しています。				
総合評価	平成19年度の評価をBとした理由は事業が計画どおり実施できたからです。第六次学校適正配置計画による四谷地区小学校は、19年4月に「四谷小学校」が開校しました。第五次学校適正配置計画による戸塚・大久保地区中学校は「新宿中」、「西早稲田中」の20年4月の開校しました。第七次適正配置計画による西戸山地区中学校は平成18年に統合協議会を設置し、詳細な協議を続けています。過去3年間の実績は各計画とも順調に実施されたものとしB評価とします。						B
							過年度評価
改革方針							18年度 B
							17年度 B
						16年度 A	
						15年度	
						方向性	
この事業は継続的に推進していく必要があるため、第一次実行計画「17 学校施設の計画的整備」に引き継いで取り組んでいきます。学校施設の計画的整備については、まず学校の規模、児童・生徒数及び老朽化の度合いから判断すべきであると考えますが、今後は学校関係者だけではなく、地域住民の意向を尊重した、開放型学校を積極的に展開するとともに、子供たちにとってより魅力ある学校を建設していきます。						1	
						現状のまま継続	